

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	10	学校名	岐南工業高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域のものづくりの将来を担う工業高校として 専門知識や技術を活かした、生徒主体の協働的な学びや学科横断的な学びを通して 社会課題を解決し未来を創る産業人の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	校訓「創意実践」のもと、知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人を育成します。 全ての教育活動を通して「自立力」「共生力」「自己実現力」をバランス良く身に付けた人づくりを目指します。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動し責任を持ち、基礎・基本を身に付けた生徒 自己の役割を認識し、周囲と協力し、工業の発展のために積極的に自己の能力を生かそうとする生徒 規範意識・倫理観・創造力・実践力等、職業人として必要な資質を身に付け、工業技術を活用し社会に貢献する生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> 産業界との連携や課題研究等を通し主体的に学び続ける力、課題解決能力、職業人として必要な資質や能力を育成 ものづくりや資格取得、各種コンテストへの参加から、知識・技能を習得、社会人基礎力を身に付けた人材を育成 学校行事や部活動及び生徒会活動から心身の健全な発育、仲間意識、責任と規律を重んずる態度を育成 	
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を持ち、専門的な知識と高度な技術の修得に誠実に取り組み、地域産業の発展を支える人材になるという意欲のある生徒 多様な人々とのつながりを大切にし、他者と協働し目標に向け努力する生徒 高校生活に明確な目標を持ち、学習だけでなく資格取得や部活動にも意欲的に取り組むことができる生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的、意欲的に取り組む授業展開と確かな学力の育成との両立 基本的生活習慣の確立と規範意識やコミュニケーション能力の向上 高校での学びと将来のつながりを実感できるよう、キャリア教育を軸とした体系的な進路支援の構築 地域や産業界等との外部連携による実践的・横断的な教育活動の一層の充実 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 職業人としての規範意識や倫理観を育成し、部活動やものづくり、資格取得を通して時代に即応できる人材の育成を目指す。 授業改善をはじめとする教職員の資質向上を目的とした研修を計画的に実施するとともに、働き方改革、働きやすい職場づくりを推進する。 	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にしたわかりやすい授業の展開に取り組み、ICTを活用するなど理解の質を高めて確かな学力を育成する。 探究活動や協働的な取組を推進し、生徒一人一人の自主的・主体的な学習態度を育成する学習活動を充実する。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行動に責任を持ち、主体的に判断し行動できる態度や、積極的に自己を生かす能力を育て、一人一人に生きる力を育む。 問題行動や不登校については、全教職員が危機意識を持ち、共通理解のもとで組織的に対応し、事故やトラブルの未然防止・早期対応に努める。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 各種講話や体験学習等を通して、社会や産業の進展を知り、社会の要請に対応できる勤労観・職業観の育成に努める。 進路の多様化を考慮して、将来を見通した進路指導が的確にできるよう情報・資料等の収集に努め、充実した進路支援を行う。 	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	果敢教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	学校運営や指導内容、広報活動の改善を継続し、企業や保護者など地域と一体となって魅力ある学校づくりを推進する。	施策IV-20	<ul style="list-style-type: none"> 生徒および保護者のアンケート結果 部活動、行事の実施状況および成果 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事やイベントにおいて、生徒の意見を多く取り入れる活動を実施した。 各工学科において、さまざまな地域の企業や公共団体等と連携して実習や講義を実施した。また、各研究会部活動が多くの地域イベントに参加した。 自己表現力や他者理解を深めるために、1年生を対象とした演劇ワークショップを実施した。 職員に対する各種アンケート調査を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の内容を生徒会を中心に検討し、充実させることができた。 幼稚園への出前授業やイルミネーションを企画・実施し、生徒が様々な体験をすることができた。 演劇ワークショップの手法を取り入れ、全学年に向けた取組ができるように検討する必要がある。 保護者や地域の方、中学生がより本校の取組を理解できるよう、情報発信のあり方をさらに検討する必要がある。 	B
	産学官連携による横断的な学びや地域イベントを通して、ものづくりの楽しさ・大切さを理解し、社会に貢献できる人材の育成を推進する。	施策II-10					
	行事や部活動を通して、自己表現力や他者理解を深めるとともに、スポーツや文化芸術など個性を伸ばす教育を充実する。	施策I-1					
	教職員間の連携を密にし、働きやすく、働きがいのある良好な職場環境づくりを推進する。	施策IV-28					
学習指導	授業規律を徹底するとともに、体験活動や探究活動など魅力ある授業を推進し、意欲的な学習態度を育成する。	施策II-8	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の結果 生徒および保護者のアンケート結果 技能検定等の合格者数各種コンテスト結果 研究授業、公開授業の教員間評価や感想 	<ul style="list-style-type: none"> 実習系以外のほとんどの授業においてタブレットやプロジェクトの積極的な活用が見られた。 生徒の実態を踏まえた上で、学習教材を研究し、検討・選定を行った。 授業公開週間を設定し、職員間で共有するとともに保護者から教育活動の評価・感想を伺った。 各学科様々なコンテストや競技会に出場することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 工業の実習において、実践的・体験的な学習活動を通し、課題解決力の向上ができた。 地域産業を支え社会に貢献しようとする主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができた。 更なるICTの活用を検討し、学級閉鎖時における授業動画配信など、学びの保障を整えていく必要がある。 多様な学力層の生徒に対応できるよう、授業展開や教材を検討する必要がある。 	B
	ICT機器を積極的に活用した授業改善を図るとともに、ICTを主体的に活用できる力を育成する。	施策II-9					
	工業科目と普通科科目の教科横断的視点による研究授業に取り組み、深い学びにつなげる授業を展開する。	施策IV-26					
	各学科の特徴を生かした競技会への積極的な参加、資格取得の支援ができる指導を推進する。	施策II-10					
生徒指導	遅刻防止指導や身だしなみ確認、挨拶・マナー指導を通して、基本的生活習慣の確立と規範意識を育成する。	施策I-1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒および保護者のアンケート結果 交通安全指導の実施状況 いじめアンケートや教育相談の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の交通安全指導や遅刻の防止、日常的な身だしなみ指導を行った。また、生徒に対して遅刻原因の分析と生活週間改善を促した。 心配な生徒や保護者に対してスクールカウンセラーやスクール相談員への面談を促し、家庭と学校との連携を図った。 発達障がい等の特性のある生徒に関する情報交換会を全職員に年3回実施した。 人権集会を活用し、外部講師を招いた情報モラル指導を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の事案に対して速やかに情報共有し、早期に対応することができた。 個別の支援が必要な生徒に対する対応や指導体制が、教育相談係を中心に整えられつつある。 遅刻者数が近年の中で激増している。主に寝坊や体調不良であるため、生活習慣改善に向けた指導を繰り返す必要がある。 交通マナーや情報モラルなど、ルールへの理解にとまらない規範意識の育成が必要である。 	B
	外部専門機関との連携強化を図り、不登校傾向や発達障がい傾向のある生徒の早期把握と対応を目指す。	施策I-3					
	生徒会やMSリーダーズの活動協力を得ながら自転車通学のマナー向上を図り、交通講話等の機会を活用した交通事故防止の指導を徹底する。	施策III-19					
	ネットワークに潜む様々な危険性や問題点に気づかせ、情報モラルやマナーを守って適切に利用できるよう指導を徹底する。	施策I-3					
進路指導	自己の適性や可能性を理解し、地域や産業界と緊密な連携を図りながら、勤労観・職業観の育成を目指す。	施策II-14	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者のアンケート結果 インターシップの評価や感想 進路決定の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学や外部講師による研修や講話を多く取り入れ、ものづくりの楽しさ・大切さについて考えることができた。 企業や大学等担当者や生徒が直接話ができる進路ガイダンスを実施したことで、就業意識が高まり自らの将来を具体的に考えることができた。 インターシップ(3日間)を2年生全員が実施することができた。 生徒の進路希望実現へ向けて、保護者を含め丁寧な支援を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職、進学ともに、ほぼ全ての希望者が進路を決定することができた。 進路希望調査の結果から個別に生徒へ情報提供を実施することができた。 進路に直結した資格の取得率を高めるために、生徒へのさらなる声掛けが必要。 勤労観や職業観の育成に課題をもつ生徒が少なからずみられることから、個別の指導が必要。 	B
	生徒の発達段階に応じた進路ガイダンスや進路相談週間を活用した体系的な進路支援を行う。	施策II-13					
	インターシップの実施方法を改善してキャリア支援の充実を図り、個々の進路実現に向けた取組を推進する。	施策II-13					
	保護者に対する情報発信を積極的に実施し、進路希望調査等の機会を捉えて家庭と連携を図り、生徒の進路実現を支援する。	施策I-7					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年2月6日 学校関係者評価 実施日：令和8年2月6日

<ul style="list-style-type: none"> 学科横断的な取り組みを検討し、生徒が幅広くものづくりの楽しさや社会とのつながりを実感しながら学べる環境を整える。 授業改善や生徒理解のための研修を計画的に実施するとともに、学び直しの機会を導入して、基礎学力の向上、学習意欲のさらなる高揚を促す。 効果的なキャリア教育のために、インターシップや企業見学、キャリアガイダンスなどをタイムリーに実施することで、確かな職業観・勤労観、キャリア設計力を育む。 「情報モラル」に関する指導において、Webや動画・学習用資料を用いて継続的に指導していく。 コミュニケーション力不足に伴う生徒間トラブル等が散見されることから、予防的なプログラムを実施する。 これからの時代の変化を見据え、工業高校としての魅力づくりについて検討を続け、より効果的に中学生に向けて発信する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭的な要素も考えられるが、遅刻や欠席など規則正しい生活を送ることが難しい生徒もいるため、注意喚起などの継続的な指導を実施していただきたい。 生活していく上で、自分の思いを表現することはとても大切であり、コミュニケーション能力の育成にもつながるため、演劇等ワークショップ事業は継続して実施できるとよい。 「伝える力」をきちんと磨いておかないと、自分の本心にやりたいことが相手に伝わらない。コミュニケーション能力を高める指導の導入において、外部講師や企業を活用し「伝える力」に重点を置いた指導の場を設けると、良い企業人、社会人が育つのではないかと感じた。 卒業後の進路希望がぼんやりとした状態である生徒に対して、勤労観や職業観を育成するためにも、入学当初から卒業後を見据えたキャリア教育の取組を導入していかないといけない。そのサポート体制がどこまで充実できるかというのが、今後の検討課題になっていくのではないかと感じた。 大学への進学志向が高まる中、どうしても職業高校が選択されにくいという風潮があるのかもしれないが、特色を活かした活動を今後も継続していただきたい。
--	--